



ふくしま 水産普及だより

No.78

17.4.1

福島県
水産事務所

第43回福島県漁業協同組合青壮年部大会開催される



17年1月25日(火)大熊町農村環境改善センターにおいて、第43回福島県漁業協同組合青壮年部大会が開催されました。大会には(代理出席を含む)県知事、本県選出の国会議員、県議会議員、漁協組合長等をはじめ県下漁協青壮年部員約150名が参集し、水産業の厳しさを訴える大友会長の挨拶の後、相馬双葉漁協青壮年部鹿島支部遠藤部長が議長に選出され、いわき市漁協青壮年部四倉支部佐藤部長の情勢及び経過報告に続いて、議事では水産業や漁場環境の実情を反映した以下の5議案が決議、相馬双葉漁協青壮年部相馬原釜支部佐藤部長の大会宣言、いわき市漁協青壮年部江名町支部高津部長の万歳三唱をもって大会は閉会されました。

第1号議案 「資源管理と栽培漁業の推進に関する件」

第2号議案 「漁場環境の保全に関する件」

第3号議案 「海難事故防止に関する件」

第4号議案 「魚食普及の推進に関する件」

第5号議案 「漁業後継者の確保育成に関する件」

また、大会では青壮年部活動に多大な貢献のあった以下の部員に県漁連会長賞と漁青連会長賞が授与されました。おめでとうございます。

◆ 県漁連会長賞

相馬双葉漁業協同組合鹿島支所 田村 一昭

◆ 漁青連会長賞

いわき市漁協青壮年部勿来支部	今泉 学	いわき市漁協青壮年部小浜支部	鈴木 重実
いわき市漁協青壮年部江名町支部	脇本 正男	いわき市漁協青壮年部四倉支部	鈴木 健
いわき市漁協青壮年部久之浜支部	新妻 竹彦	相馬双葉漁協青壮年部請戸支部	柴 政一
相馬双葉漁協青壮年部鹿島支部	佐々木貴司	相馬双葉漁協青壮年部磯部支部	河西 一彦
相馬双葉漁協青壮年部相馬原釜支部	高橋 智重	相馬双葉漁協青壮年部相馬原釜支部	佐藤 雅宣
相馬双葉漁協青壮年部新地支部	浜野 勝行	相馬双葉漁協青壮年部松川浦支部	菅野 雅洋

メバルは日本各地の沿岸域に分布する大変ポピュラーな魚で、本県では固定式さし網や一本釣り等で主に漁獲されます。漁獲量は平成元年～7年にかけては200トン前後で推移していましたが、近年は100トン前後まで減少しています。そこで、水産試験場では平成14年からメバルの調査を行い、これまでにいくつかの生態的知見と資源状態に関する資料を得ましたので紹介します。

1 成長

満2歳で全長約16cm、3歳で20cm、4歳で22cmと比較的成長が遅い魚であることがわかりました。また、5歳を過ぎる頃から雌雄で成長差が出始め、雌の方が成長が速いこともわかりました。

2 産仔期

メバルは卵からふ化した状態で生まれる卵胎生の魚です。生殖腺の状態を観察したところ11月頃から発達し、1月前後には産仔した個体が見られたことから、産仔期は1月前後であることが推測されました。

3 漁獲物の大きさ

市場に水揚げされた魚を測定した結果、主体は全長20cm前後でした。年齢別にみると満1歳になる1月頃から漁獲されはじめますが、本格的に漁獲されるのは満2歳になってからでした。

年齢別の漁獲尾数を推定したところ、2歳魚の割合が約50%、3歳が25~30%と若齢魚の割合が高いことがわかりました。

4 資源状況と利用について

得られた資料を基に資源状態を診断した結果、漁獲圧力が過剰であり、漁獲を増やすには漁獲開始年齢を現状の2歳から引き上げることが有効であることがわかりました。仮に3歳まで引き上げた場合、管理から10年目には金額で1.34倍になることが試算されました。現実的には難しい課題ですが、さし網の目合拡大や保護区などの漁場管理を検討する必要があります。

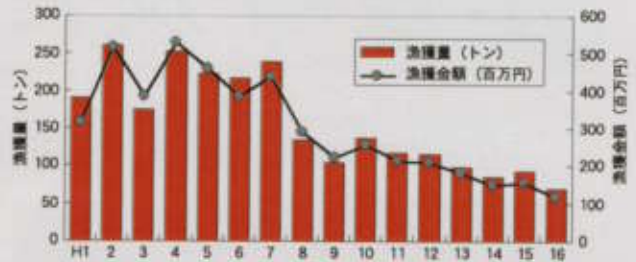


図1 福島県におけるメバルの漁獲量・金額
福島県海面漁業漁獲高統計より (H16は推定値)

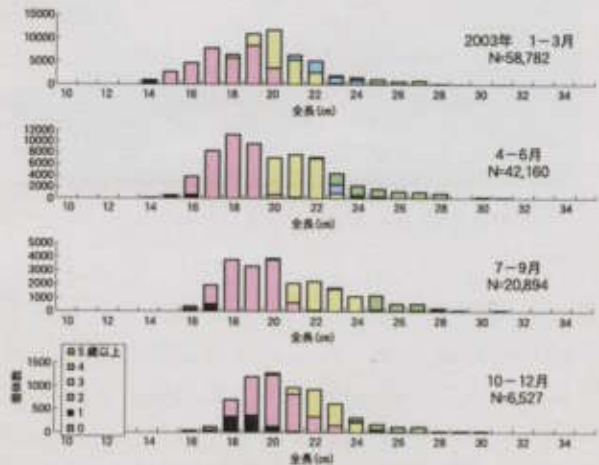


図2 メバルの全長組成 (相馬原釜 一本釣り)
*調査尾数と漁獲量の比率で引き延ばし

表1 年齢別推定漁獲尾数割合 (%)

	年齢 (歳)						
	0	1	2	3	4	5	6≤
平成14年	0.0	10.9	49.6	25.4	2.7	8.0	3.5
平成15年	0.0	1.5	46.6	33.9	9.3	1.5	7.2

表2 管理無しを1とした場合の比率

管理内容	資源尾数		資源量		水揚げ量		水揚げ金額	
	<管理年><10年目>	<管理年><10年目>	<管理年><10年目>	<管理年><10年目>	<管理年><10年目>	<管理年><10年目>	<管理年><10年目>	<管理年><10年目>
管理無し	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00
18cm規制 (25%生存)	1.00	1.02	1.00	1.05	0.81	0.87	0.92	0.98
20cm規制 (25%生存)	1.00	1.04	1.00	1.09	0.65	0.75	0.77	0.89
2.5歳漁獲開始	1.00	1.11	1.00	1.22	0.85	1.09	0.95	1.23
3.0歳漁獲開始	1.00	1.22	1.00	1.44	0.65	1.13	0.77	1.34
努力量10%削減	1.00	1.03	1.00	1.08	0.92	1.01	0.92	1.02
努力量20%削減	1.00	1.07	1.00	1.19	0.84	1.01	0.84	1.03
努力量30%削減	1.00	1.12	1.00	1.32	0.76	1.00	0.76	1.04

福島県青年・女性漁業者交流大会

平成17年1月25日(火)大熊町農村環境改善センターにおいて、県下の青年・女性漁業者が日頃の研究活動や実践活動の成果を発表するとともに、広く研究討論を深めることによって、漁業技術の向上や地域の活性化に関する知識などを研鑽し、活力ある地域沿岸漁業の形成と振興に寄与することを目的として、福島県青年・女性漁業者交流大会が開催されました。

また、発表後の審査の合間には、各青壮年部による先進地技術交流の報告が行われました。以下に発表課題を抜粋して内容の概略をお伝えします。

① 「磯根漁業の確立を目指して」 相馬双葉漁協新地支所青壮年部 小野典重

平成9年に、水産試験場の協力を得て磯根漁場の適地選定を実施し、この漁場を試験区として毎年アワビ種苗の放流と追跡調査を実施した。また、潜水士免許も取得し磯根資源の利用、管理等を自主的に行った。これからはアワビ以外の総合的な磯根資源の有効活用を検討し、漁業経営の向上を図りたい。



② 「海竜の里」を魚で町おこしー女性部が取り組む地産地消ー

いわき市漁協女性部久之浜支部 江川啓子

グループでは魚食普及の取り組みとして、イベントへの出店や魚料理講習会等により久之浜産の魚介類を紹介してきたが、発展性、継続性が得られなかったため、これまでの取り組みを振り返り、新たな視点に立った取り組みとして、各種イベントへの参加、加工、直売所経営において先進的な地域への視察等を実施した。将来は直売所の開設や宅配の取り組みを行い、漁業経営の一助としたい。



③ 「磯根漁業への着業に向けて」 相馬双葉漁協青壮年部請戸支所 鎌田寛典

④ 「アラム藻場の再生に向けて」 いわき市漁協青壮年部江名町支所 高津 勲

審査の結果、新地支所青壮年部が最優秀賞、女性部久之浜支部が優秀賞に選ばれ、3月7、8日に東京で開催される全国青年・女性漁業者交流大会において、県代表として発表しました。

第10回全国青年・女性漁業者交流大会

3月7、8日、東京の虎ノ門パストラルにおいて、第10回全国青年・女性漁業者交流大会が開催され、都道府県から選抜された54グループが、浜の活性化や日頃の実践活動について発表しました(参集者約600名)。

県代表では、第1分科会(資源管理・資源増殖部門)の相馬双葉漁協新地支所青壮年部が農林中央金庫理事長賞を、第4分科会(地域活性化部門)のいわき市漁協女性部久之浜支部が全国漁業協同組合連合会会長賞を受賞しました。

2日目の各分科会講評では、漁業の協業化が全国的な流れとなっている、あるいは、ブルーツーリズムといった漁業と観光を結びつけた発表が見られたとのことでした。また、今回からは、全体会において、各分科会の農林水産大臣賞受賞作品の発表が行われました。



新規漁業就業者を紹介します。

名前：金子 智(さとし)さん
年齢：20歳
漁協：相馬双葉漁協磯部支所
船名：宝来丸(4.8t、固定式さし網漁業)

祖父の金子政志さん、父親の金子武八さんとともに漁に出ている。
漁業者を選んだ理由：長男で家業を継がなければならなかった。
(兄弟は、姉3人とか)

現在の仕事：漁労全般の手伝いということで、おじいちゃん、お父さん達の見習い修行というところ。

趣味：釣り、ドライブ。中学時代はサッカー、高校時代はウェイトリフティングをやっていた力持ち。

今一番やりたいこと：「とにかく遊びたい。同級生たちと遊ぶ時間が合わないし…」と少し口ごもっていました。



新しい普及員を紹介します。



名前：藤田 恒雄
生年月日：昭和34年9月16日(45歳)
担当：漁業士会、漁青連、漁女連、普及業務の調整など
経歴：昭和60年から県職員として水産試験場と水産事務所に勤務しました。水産試験場では、アワビやヒラメの放流効果調査や漁場環境調査、利用加工の研究を担当しました。水産事務所では、いわき北部の普及員を3年間勤め、四倉に噴流式マンガを導入しました。

ひとこと：今回の異動で普及業務を担当することになりました。漁業振興のため微力ながら努力いたしますのでよろしくお願いいたします。



名前：榎本 昌宏(旧姓 根本)
生年月日：昭和45年9月30日(35歳)
担当区：富熊、請戸、鹿島、松川浦
経歴：平成7年度、県職員に採用され、大熊町にある水産種苗研究所に配属になりホッキガイやアサリなどの、二枚貝の種苗生産試験研究や餌料藻類培養試験研究に携わりました。平成12年度に水産試験場に異動となり、漁場環境部所属となりました。主に海底地形調査研究を担当した他、魚礁調査や卵稚仔調査なども担当しました。

ひとこと：新年度から新しく普及員となりました。まだまだ知らないことも多いと思いますが、皆さんのお話をお聞きして頑張りたいと思いますのでよろしくお願いいたします。